



いつもあなたのそばに・・・おひさま薬局です

今年の気候は、暑かったり、寒かったり、変な気候です。

こんな時はとても体が疲れやすいので、十分に休養を摂ることが大切なのですが・・・子供たちにとっては、運動会に文化祭何かと忙しい秋です。しっかり健康管理してあげたいですね。



例年、冬に流行するマイコプラズマ肺炎が今年の夏、急増して、今高止まりしています。

小学校では学級閉鎖になったところも・・・こじらせると大変！！どんなことに気を付けたらいいのでしょうか？

マイコプラズマ肺炎とは？

マイコプラズマは正式には「Mycoplasma pneumoniae」という名前の微生物。細菌よりも小さく、ウイルスよりも大きく生物学的には細菌に分類されますが、他の細菌とは異なり細胞壁がありません。

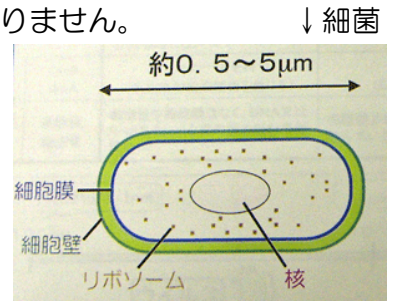
ペニシリンやセフェム系などの抗生物質の多くは細菌の細胞壁を壊して細菌を殺す作用を持っていますが、これではマイコプラズマに対して全く効果がありません。

この微生物は、気管や喉などの気道に感染することが特徴です。

マイコプラズマ肺炎の症状 小児・若年成人が中心で1歳以下には少ない

呼吸器系に感染すると上気道炎、咽頭炎、気管支炎、肺炎になります。

肺炎は、通常の肺炎球菌による肺炎とは違うため「異型肺炎」と呼ばれます。



<p>(症状) 2～3日で治る人と、1か月以上かかる人、個人差が大きい 鼻水、鼻づまり 熱は出る場合とでない場合がある (子供によっては39℃の高熱になることも) 長い咳(1か月以上続くケースもある)痰は少なく、夜に多い。 本人は比較的元気で全身症状が良い(機嫌が良い)</p>	<p>(合併症) 消化器症状(吐き気、嘔吐、下痢) 嘔声、耳の炎症(中耳炎、鼓膜炎) 他に、関節痛、筋肉痛、発疹、 肝炎、脳炎をおこすことも あります。</p>
---	--

症状を長引かせて合併症を起こさないためにも、乾いた咳が続くときには早めに受診しましょう。

感染・潜伏期間

感染から発症までの潜伏期間は1～3週間ぐらいで、初期症状は発熱、全身倦怠、頭痛など。咳は初期症状出現3～5日後に始まることが多い。当初は乾性の咳ですが、経過に従い咳は徐々に強くなり、解熱後も続く。後期に湿性の咳になる。喘息様気管支炎を起こすことが多く、肺機能が低下します。発症年齢は8～9歳がピーク。

咳で人にうつる飛沫感染です。そのため、学校や会社など集団生活している環境で感染が広がっていきます。小学校や中学校での流行が多いのですが、免疫を長くは維持しにくいので、何年後かに再発する人もいます。

治療法

マイコプラズマ肺炎に使われるマクロライド系抗生物質は、苦いことが多く、飲むのを嫌がるお子さんが多いのでアイスクリームなどに混ぜたりするのがおすすめ。オレンジジュースやスポーツ飲料に溶かすと余計に苦くなります。マクロライド系抗生物質は喘息の薬(テオフィリン)と一緒に飲むと副作用が出やすくなる場合があります。マクロライド系が効かないときに使われるテトラサイクリン系は8歳以下の子供に長期で使用すると、歯が黄色くなったり、骨の発育に影響が出るといわれています。カルシウムイオンとの併用で吸収が低下するので、牛乳、乳製品との併用は避けましょう。抗生物質も5日間ぐらいでは再燃することがあるので、医師の指示に従って10日間ぐらいはしっかりと続けましょう。早く症状を落ち着かせて、こじらせないためには、処方された薬を決められた期間しっかりと飲ませることが大切です。今飲んでる薬があったり、薬を飲むのを嫌がったら相談をこれらの抗生物質はマイコプラズマの増殖は邪魔しても、菌そのものを殺すわけではないので、症状が落ち着いてからも、患者さんの気道からマイコプラズマが数か月(13週)分離されることもあります。だから、予防が大切

予防

マイコプラズマは感染していても潜伏期間が長く気づかないので外を出歩いて周りに菌をまき散らすので「歩く肺炎」とも言われます。流行している時期には、人ごみを避けて、十分な睡眠と栄養、マスク、うがい、手洗いをしましょう。他の人に向けて咳をしないでください。家庭内でも感染します。予防接種はなく、決定的な予防法はありません。一度罹っても終生免疫がつかず、何度も感染します。

幼稚園、保育園、学校などでの流行が多いので、流行しているときに、



子供に咳、発熱などの症状が見られたら早めに呼吸器科、小児科へ受診しましょう



?

後
は

の
の
す。

分
...

を。
こ
！